

令和2年5月8日

生徒の皆さん

広島市立基町高等学校

校長 横山尚司

### 基町高等学校開校日について

明日、5月9日は基町高等学校の開校日です。基町高等学校は、1949（昭和24）年5月9日、田中浩造校長以下教職員38名、生徒621名が、旧広島市立城北高校の集会所に集合し、校長から「広島県広島基町高等学校の開校宣言」があつて、本校の歴史の1ページが開かれました。開校当時は、教職員も生徒も市内各校からの寄り合わせであり、制服も種々雑多であったことから、市内5校中もっとも早く、6月中旬には現在の校章がつくられ、基町高校は一つにまとまりました。生徒の皆さんは、入学当初の学年集会などで校章の由来については聞いたことがあると思いますが、校章には本校ゆかりの植物である梧桐<sup>あおぎり</sup>の実がデザインされています。校章の着用にあたり、初代校長田中浩造先生は、「梧桐は、植物の中でも高貴なる樹である。その故に、樹上には常に鳳凰がきたり宿るといわれている。梧桐が本校の象徴であるからには、ここに学ぶ諸君を鳳凰になぞらえることができる。諸君一人ひとりが鳳凰たる自負と襟度<sup>きんど</sup>をもって心身錬磨に精励されたき」旨を訓示されました。以来、基町高校は、27,000人を超える優秀な卒業生を輩出し、大きな発展を遂げています。

明日で、基町高等学校は、開校以来71年を迎えます。新型コロナウイルス感染症予防のため、臨時休業が続くという未だかつて経験したことがない状況ですが、今だからこそ校訓の「自主自律」、サブモットーの「継続は力なり」の意味をかみしめ、与えられている課題にしっかりと取り組んでください。そして、教育活動が再開されたときには、元気な顔で登校し、新しい基町高校の歴史を築くべく、決意を新たに学業や様々な活動に努力を重ねていきましょう。